

令和6年3月15日

保護者 様

浦安市立浦安小学校
校長 臼井基之

令和5年度 浦安小学校「学校評価アンケート」の結果について

仲春の候、保護者の皆様にはご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、過日ご協力いただきました学校評価のアンケートについて集計し、結果を取りまとめましたので、下記のとおりご報告いたします。

保護者の皆様からいただきました評価を真摯に受け止めるとともに、学校評議員・学校関係評価委員の皆様のご意見をもとに、次年度の学校運営に生かしてまいります。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

記

1 調査・集計・評価等について

(1) 調査期間 令和5年11月29日(水)～12月11日(月)

(2) 回収率 児童95.1% ・保護者66.8% ・教職員100%

(3) 集計・評価のしかた

本校の「めざす子ども像」を含む下の5つの観点について、「そう思う」・「ややそう思う」・「あまりそう思わない」・「そう思わない」の4段階の中から一つを選ぶ4件法で実施した学校評価アンケートの結果を集計しました。「そう思う」及び「ややそう思う」を肯定的回答(肯定的評価)、「あまりそう思わない」及び「そう思わない」を否定的回答(否定的評価)としてとらえ、本年度重点的に取り組んだ項目を中心に提起し、主に児童・保護者の二者の比較から結果を評価し、取りまとめました。

<5つの観点>

- ・様々な立場の人と積極的にかかわる子、自他を認める温かい心をもつ子
- ・自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ深める子
- ・自分を信じて挑戦する子
- ・あたり前のことがあたり前にできる子
- ・学校運営について(保護者のみ)
- ・その他(「学校が楽しい」「浦安小学校のたくさんの先生が、わたしに声をかけてくれたり、心配してくれたりしている」)

2 児童・保護者アンケートの結果について

2ページ～5ページ 参照

※ 同アンケートの単純集計の結果は、【別添1】(児童)・【別添2】(保護者)をご覧ください。

【児童・保護者アンケートの結果】

(1) 様々な立場の人と積極的にかかわる子、自他を認める温かい心をもつ子 について

- ① 「誰に対しても優しく接している」という児童は8割程度に減少する一方で、保護者の評価は高まり、9割が肯定的にとらえている。(児童調査項目4・保護者調査項目4)

【児童】	肯定的回答	84% (昨年度の「友達にやさしく」よりも8ポイント減)
【保護者】	肯定的回答	94% (昨年度の「友達にやさしく」よりも5ポイント増)

日常生活の中では、困っている友達に対して、また、上学年児童が下学年児童に対して優しく接している姿がよく見られます。そのため、児童の肯定的な回答が昨年度に比べ低くなった背景として、昨年度よりも自分を厳しく見つめていることや、「やさしく接する」対象を、昨年度の「友達」から本年度「誰に対しても」と広げたことなどが推察されます。

引き続き、機会あるごとに本校のめざす子ども像の「豊かなかかわり」「温かい心」を各諸活動のねらいの一つに位置付け、継続的に取り組んでまいります。

- ② 「人が困っていたら、進んで助けている」という児童は8割（5人に4人）以上の状況で、保護者の評価も同程度の状況。(児童調査項目5・保護者調査項目5)

【児童】	肯定的回答	87% (新規項目)
【保護者】	肯定的回答	86% (新規項目)

本項目の肯定的回答については、児童は前項①よりも3ポイント高く、保護者は8ポイント低い状況がみられます。

児童は困り感をもつ人に対する「温かな心」を、保護者の回答では、誰に対しても温かく接することなど「温かな心」を高め評価しています。学校と家庭における「温かな心」を向ける対象の差異がうかがえ、学校において児童は、他の児童の「主体性」に配慮し、困り感の実情に応じて対応している可能性がうかがえます。

本項目は、後述する「浦安っ子のあたりまえ」（「当たり前のことを当たり前でできる」こと）に設定している子ども像でもあるため、引き続き、道徳科をはじめ日常の諸活動の中で、更に本姿勢を高められるよう取り組んでまいります。

- ③ 「地域の活動に進んで参加している」という児童は6割程度に減少し、保護者の評価も同程度。(児童調査項目11・保護者調査項目12)

【児童】	肯定的回答	60% (昨年度の「地域の行事」よりも5ポイント減)
【保護者】	肯定的回答	58% (昨年度の「地域の行事」よりも4ポイント増)

児童の肯定的回答については、学年が上がるにつれて下降する傾向がみられます。

しかし、この傾向は、本校の行事や諸活動で見られる児童の姿と異なる傾向がみられます。そのため、上記結果は、学年が上がるごとに自己評価が厳しくなったためなのか、または、通塾や習い事による環境的な要因なのか、あるいは、興味・関心等の心理的な要因なのかなど、その背景を見定め、PTAや地域と連携しながら対応を考えてまいります。

(2) 自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ深める子 について

- ① 「自分から疑問をもち、学習に取り組んでいる」という児童は減少し、8割を下回る。保護者の評価は更に厳しく、肯定的な回答は6割にとどまる。(児童調査項目19・保護者調査項目19)

【児童】	肯定的回答	77% (昨年度の「自分の考えをもって」よりも7ポイント減)
【保護者】	肯定的回答	61% (新規項目)

保護者の回答が児童よりも16ポイント低くなっています。家庭学習の場面では基礎的・基本的な知識や技能の習得に係る宿題の割合が高いことがその背景の一つとして考えられます。

宿題の内容として、主体的に学習に取り組む態度を高める課題の工夫や、毎時の授業においては、導入場面で児童の問題意識や目的意識を高められるような導入場面の工夫に、引き続き取り組んでまいります。

- ② 「互いに助け合って取り組み、考えを広げたり、深めたりしている」という児童は、8割を下回る状況。(児童調査項目 20)

【児 童】 肯定的回答 78% (新規項目)
【保護者】 保護者調査の該当項目なし

児童の肯定的な回答は、本項目と前項目①「自ら疑問をもち」の肯定的回答の割合(77%)と同程度でした。前項目①で肯定的回答をした児童の9割が本項目においても肯定的回答をしていたことから、「考えを広げたり、深めたり」するためには、まず「自ら疑問をもつ」ことが大切であることがうかがえます。

肯定的な回答の内訳として、「そう思う」は41%・「ややそう思う」は37%で、より肯定的な回答は全体の4割にとどまること、否定的な回答をした児童は2割を超えていたことに課題が残ります。前項①の課題とともに、めざす子ども像の「学び合いを通して考えを広げ深める」ことができるよう、引き続き「学び合い」の仕方について工夫改善に取り組んでまいります。

- ③ 「学級担任の先生以外の先生が教える授業を、わかりやすい」と思う児童は9割以上で、昨年度と同程度の状況(児童調査項目 21)。「一部の教科について、教科担任制で授業を行うことは、お子さんの学習に効果的だ」と思う保護者は100%に迫る状況。(保護者調査項目 20)。

【児 童】 肯定的回答 92% (昨年度とほぼ同程度)
【保護者】 肯定的回答 98% (昨年度よりも3ポイント増)

一部教科担任制の導入により、児童一人一人の学習状況について多面的・多角的にとらえ助言や支援に生かすことなど、一定の成果がみられました。しかし、8%の児童、2%の保護者は否定的な回答であったため、引き続き、指導方法の工夫改善に取り組んでまいります。

- ④ 「学級をいくつかに分けて行う授業は、わかりやすい」と思う児童(4年生以上)も、「何人かの先生が教室に入って行う授業は、わかりやすい」と思う児童(3年生以下)も9割の状況。保護者の肯定的な評価は100%に迫る状況。(児童調査項目 22・保護者調査項目 21)。

【児 童】 肯定的回答 順に90%・90% (昨年度よりも前者7ポイント増、3年生以下は新規項目)
【保護者】 肯定的回答 順に97%・99% (昨年度よりも前者3ポイント増、3年生以下は新規項目)

1年生から3年生については複数教員による協力的な授業(ティーム・ティーチング)を、4年生から6年生の算数の学習については、2学級を習熟の程度に応じた3つのグループに分けて授業を行ったことにより、児童一人一人に教師の目が行き届き、質問しやすい環境や、落ち着いて学習できたことなどが背景として考えられます。

しかし、児童の10%・保護者の1~3%は否定的な回答であったため、更に個に応じて助言や支援を行えるよう、引き続き前項目③とともに、指導方法の工夫改善に取り組んでまいります。

- ⑤ 「コンピュータやタブレットを使った学習を、わかりやすい」と思う児童は9割の状況。
(児童調査項目 23)

【児 童】 肯定的回答 90% (昨年度の「楽しい」よりも3ポイント減)
【保護者】 該当項目なし

タブレット端末を使った学習は着実に根付いてきており、学習のためのツールとして日常的に活用しています。調べ学習やプレゼンテーションソフトの作成、eライブラリでの学習はもちろん、学級閉鎖時等におけるオンラインでの学習でも活用しており、現在の教育活動にとって不可欠な要素となっています。

また、次年度本校では、図書室とパソコン室を統合した「メディアセンター」を運用できる予定となっています。否定的な回答をした児童10%へのよりよい支援方法の一つとしてはもとより、低学年の早い段階での活用も視野に入れ、ICTの活用を更に推進し、児童や教職員のリテラシーを高めてまいります。

(3) **自分を信じて挑戦する子** について

- ① 「(自分を信じて) 様々なことに挑戦している」という児童は昨年度より大きく高まり、8割に近づく。保護者の評価は若干下がったものの、児童と同程度。(児童調査項目6・保護者調査項目6)

【児 童】	肯定的回答	77% (昨年度よりも11ポイント増)
【保護者】	肯定的回答	80% (昨年度の「挑戦しようとする意欲をもっている」よりも2ポイント減)

保護者の評価の背景として、昨年度は「意欲をもっている」という意欲について質問したのに対し、本年度は「挑戦している」という行動について質問したことが考えられます。

一方、児童の自己評価の背景として、まず、「めざす子ども像」の一つとして、機会あるごとに「自分を信じて挑戦」というキーワードを提示し、ねらいの一つとして意識させたこと、また、例えば「マラソン記録」の評価方法は、「試走」と「記録会」との差による「伸び」という個人内評価(過去の自分への挑戦)であったため、挑戦する意欲を個々が高めたことなどが考えられます。

なお、児童の自己有用感について、「自分にはよいところがある」(質問項目13)の肯定的回答は85%(昨年度よりも7ポイント増)でした。「自分を信じて、様々なことに挑戦している」の9割以上が肯定的に回答し、「自分を信じて挑戦」により自己有用感を高める傾向がみられました。

来年度も引き続き、児童が自己有用感や自己肯定感を高める評価の工夫とともに、更に自信をもって挑戦・活動できるよう支援してまいります。

(4) **あたり前のことがあたり前にできる子(「浦安っ子のあたりまえ」)** について

- ① 「浦安っ子のあたりまえ」に係る5項目については、昨年度に比べ、「誰に対しても、自分から進んで挨拶」「時間を守って行動」に課題がみられる。

(児童調査項目3・5・8・9・10、保護者調査項目3・5・8・10・11)

ア 「誰に対しても、自分から進んで挨拶(あいさつ)している」か
【児 童】 肯定的回答 75% (昨年度の「地域の人に」よりも5ポイント減)
【保護者】 肯定的回答 69% (昨年度の「地域の人に」よりも5ポイント減)
イ 「時間を守って行動している」か
【児 童】 肯定的回答 80% (昨年度の「チャイムなど時間を守って生活」よりも6ポイント減)
【保護者】 肯定的回答 70% (昨年度の「時間を守って生活」よりも8ポイント減)
ウ 「先生や友達の話をよく聞いている」か
【児 童】 肯定的回答 87% (昨年度の「学習中、先生や友達のと」同程度)
【保護者】 肯定的回答 84% (新規項目)
エ 「人が困っていたら、進んで助けている」か
【児 童】 肯定的回答 87% (新規項目)
【保護者】 肯定的回答 86% (新規項目)
オ 「一生懸命に掃除(保護者調査項目は「整理整頓」)している」か
【児 童】 肯定的回答 93% (昨年度と同程度)
【保護者】 肯定的回答 44% (昨年度の「整理整頓ができる」と同程度)

特に、下位2項目のうち、「誰に対しても、自分から進んで挨拶」については、保護者の評価も厳しく、69%(新規項目)にとどまりました。毎朝の児童昇降口での挨拶の状況では、主体的に丁寧な挨拶をする児童がいる反面、こちらから挨拶をしてもそのまま通り過ぎる児童も見られる点は今後の課題です。

「浦安っ子のあたりまえ」の中に掲げている「気持ちのよいあいさつ」については、「めざす子ども像」の「豊かなかかわり」「温かい心」につながる大切なコミュニケーションの基本となるものです。今後も継続して取り組んでまいります。

(5) **学校運営（保護者のみ調査・4項目）** について

- ① 「安全・安心」で「開かれ」「信頼される」学校、「（浦安）中学区の園小中の連携」に係る4項目では、昨年度に比べ、特に「開かれた学校」に課題がみられる。（保護者調査項目 27・28・29・30）

- ア 「学校は、いじめや事故のない、安全で安心な学校づくりに努めている」か
【保護者】 肯定的回答 90%（昨年度の「いじめのない楽しい学校」と同程度）
- イ 「学校の教職員は、保護者からの問合せや相談事に誠実に対応している」か
【保護者】 肯定的回答 95%（昨年度と同程度）
- ウ 「学校は、学年だよりや学校だより、ホームページ等で情報をわかりやすく伝えている」か
【保護者】 肯定的回答 87%（昨年度の「学校の様子をわかりやすく」よりも4ポイント減）
- エ 「学校は、中学校区のこども園・保育園、小学校、中学校と連携して諸活動を進めている」か
【保護者】 肯定的回答 89%（昨年度の「連携を図っている」よりも5ポイント増）

特に、「情報をわかりやすく伝えている」ことについて、昨年度に比べ4ポイント低かった背景として、新型コロナウイルス感染症のいわゆる「2類から5類への移行」により、浦安中学校区の園・小中学校間で連携した諸活動や外部講師を招いた授業などを再開・推進したり、保護者の方々の参観についての制限を緩和したりした一方で、ホームページの更新については行事や活動ごとの程度の発信にとどまったことなどが考えられます。

今後は、一層積極的な情報発信に努めることともに、上位2項目についても否定的回答をされた保護者があったことを真摯に受け止め、各教育活動の一層の改善・推進・充実について、学校と保護者・地域が更に連携して協働的に取り組み、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。

(6) その他

- ① 「学校に行くことが楽しい」と思う児童は昨年度よりも低く、8割程度（児童調査項目 17）に、「お子さんは、楽しく学校に通っている」という保護者は9割を超え、昨年度と同程度。
(保護者調査項目 17)

- 【児童】 肯定的回答 82%（昨年度の「行事は楽しい」よりも8ポイント減）
【保護者】 肯定的回答 96%（昨年度と同程度）

本項目について、子どもたちが楽しく学校に通えるということは、本校の教育活動を進める前提として大切にしたいことです。

児童の2割が否定的な回答をしています。この背景として、「学校の勉強がよくわかる」（調査項目 18）についての否定的な回答が同程度であることから、「学校の勉強がよくわかる」か否かが関係していることが考えられます。保護者の否定的回答が5%あったことから、(2)のとおり、個に応じた指導を一層推進・充実できるよう指導体制や方法を更に工夫改善してまいります。

- ② 「浦安小学校のたくさんの先生（教職員）が、わたし（お子さん）に声をかけてくれたり、心配してくれたりして（見守って）いる」と思う児童は昨年度よりも低く、8割程度（児童調査項目 15）、保護者の評価の方が高く、9割以上の状況。（（ ）内は保護者調査項目 15）

- 【児童】 肯定的回答 83%
（昨年度の「困ったときや悩みがある時は相談にのってくれる」よりも9ポイント減）
【保護者】 肯定的回答 92%（新規項目）

本年度は、昨年度の調査に比べ、「先生」の範囲を広げる一方で、行動について「相談にのる」ための前段階の「声をかける」「心配する」について質問したところ、課題が残りました。

本校では「浦小の子ども、浦小の先生」を合言葉に、全教職員で児童一人一人の支援に取り組んでいます。しかしながら、2割弱の児童・1割弱の保護者が否定的な回答をしていることから、「一人も取り残さない」ための体制や手立てを再構築し、更に安全・安心な学校づくり・学校運営に努めてまいります。